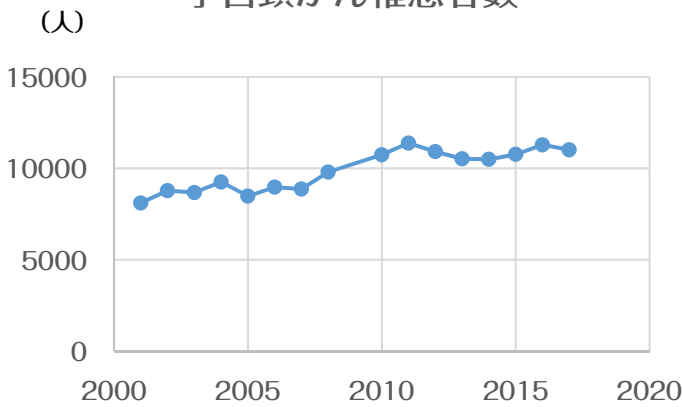


# 子宮頸がんの現状

子宮頸部にできるがんで、日本では年間約 11,000 人の女性が子宮頸がんを発症し、約 2,900 人が死亡しています。これは、一生涯のうちで 74 人に 1 人が子宮頸がんにかかるリスクがあることとなります。

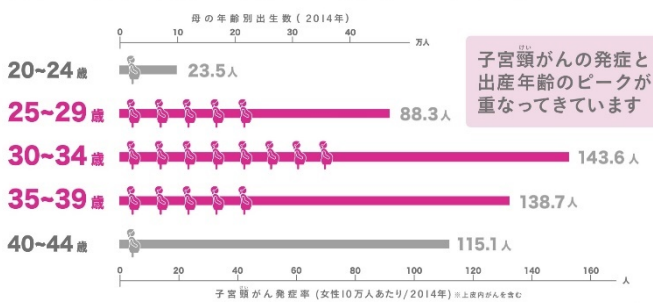
## 子宮頸がん罹患者数



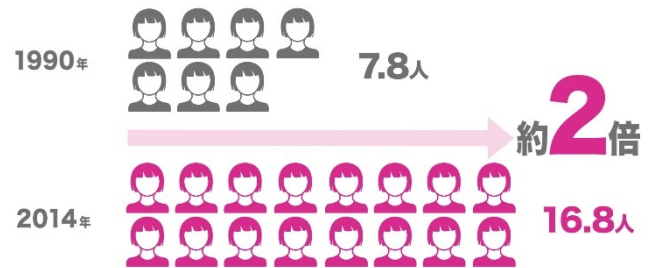
【国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」(人口動態統計)】

とくに、**出産年齢のピークとなる若い年齢層 (20~39 歳) の女性に増加しており、この年代での子宮頸がん発症率は 10 万人あたり 16.8 人となっています。**40 歳未満の女性では 2 番目に多いがんとなっています。

## 女性の出産年齢と年齢別子宮頸がん発症率



## 20代~30代女性 子宮頸がん発症率 (10万人あたり)



主な原因は**発がん性ヒトパピローマウイルス (HPV) による感染**です。発がん性 HPV は 15 種類ほどあり、なかでも HPV16 型・18 型は子宮頸がんから多く見つかっています HPV の持続感染により、まず子宮頸部に**前がん病変 (異形成) が生じ、その後、数年から数十年を経て子宮頸がん**に進展します。

子宮頸がんは、初期段階のほとんどに自覚症状がありません。HPV は**性行為で感染**します。性活動がある限り感染リスクがあり、**約 8 割の女性が一生涯に一度は HPV に感染する**とされています。子宮頸がんになった場合、子宮摘出せざるを得ないこともあり、**将来出産を考えている女性にとっては、大きな問題**となります。



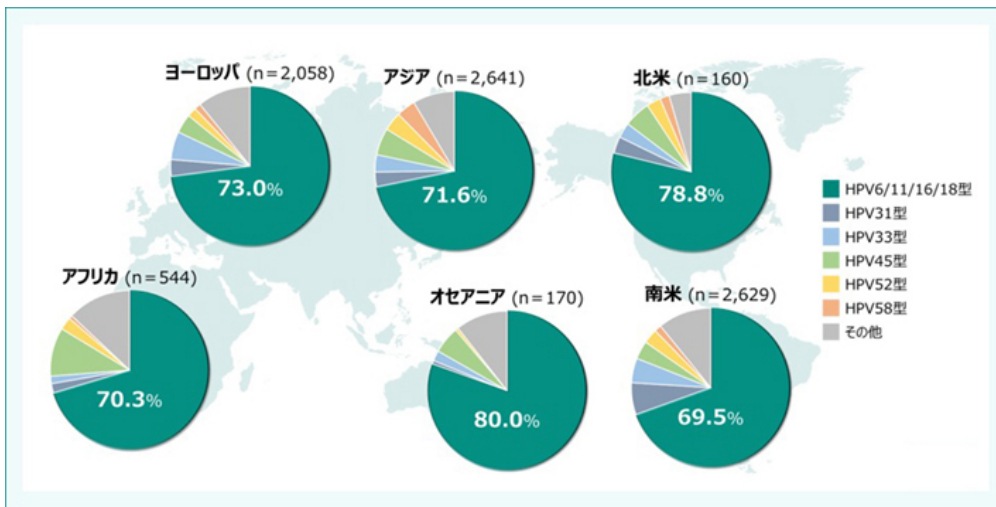
感染する前の、予防が大切

(2021年3月1日作成;改訂第2版)

# 世界における HPV 関連子宮頸がんにおける HPV 型分布

世界における子宮頸がんの約 70~80%に、HPV6、11、16、18 型が寄与していると推定されています<sup>1)</sup>。  
 また欧米諸国と比較し、アジアにおいては、上記に加え、HPV52/58 型の比率が高いことが報告されています<sup>2)</sup>。

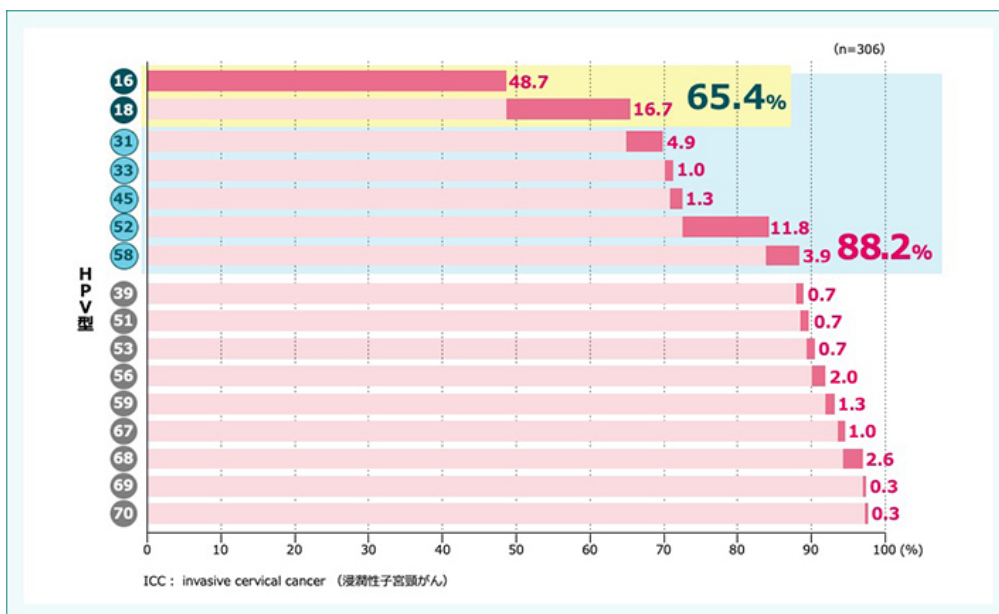
世界の HPV 関連子宮頸がんにおける HPV 型分布 (海外データ)



# 日本における HPV 関連子宮頸がんにおける HPV 型分布

日本においては、浸潤性子宮頸がん(invasive cervical cancer : ICC)は HPV16、18 型が 65.4%をカバーし、HPV16、18、31、33、45、52、58 型では 88.2%をカバーします<sup>3)</sup>。

日本の HPV 関連子宮頸がんにおける HPV 型分布



【参考文献】

- 1) Serrano B et al. Infect Agent Cancer. 2012; 7: 38.
- 2) Summary Report Japan. <http://www.hpvcentre.net/statistics/reports/JPN.pdf> (Accessed June 1, 2020)
- 3) Sakamoto J et al. Papillomavirus Res. 2018; 6: 46-51.

(2021年3月1日作成; 改訂第2版)